



カトリック六甲教会 教会報

2015

1

No.517



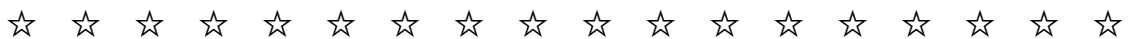
新年のご挨拶

小教区評議会議長 飯塚

皆さま 新年 明けましておめでとうございます。恵みあふれる聖マリアの執り成しを願
い、皆さまとご家族・ご友人お一人お一人の2015年のご健勝とご多幸を心よりお祈りい
たします。

昨年春には主任司祭にアルフレド・セゴビア神父様、助任司祭に高山 親神父様を、六
甲教会にお迎えしました。また9月には大阪教区にトマス・アキノス前田万葉大司教様
が着座されました。—昨年3月に266代の新ローマ教皇にフランシスコが就任され、世界
中からの大きな喜びと希望のうちに、期待に満ちた教会の動きが今も注目されている中、
時を同じくしてわが六甲教会も新しいあゆみを始めたのでした。さらに新しい年を迎え、
心を新たにして教会共同体・神の家族として互いに愛をもって支え合っていくことが出来
るように、共にあゆみを進めていきたいと思ひます。

また、1月に大震災20年追悼祈念ミサ、2月に高山右近没後400年列福祈願ミサ、
5・6月には神戸地区大会と神戸東ブロック合同堅信式が準備されています。教会全体に
も大きな恵みがもたらされますようお祈りします。



新年を迎えて願いを込めてともに祈りましょう。

私たちが主の交わりのうちに、共に信仰を深めていけますように！

幸せな家庭が築かれ、子供たちが健全に成長しますように！

病者・高齢者が温かい世話を受け大切にされますように！

厳しい試練の中にある人々が必要な助けと

励ましを受けることができますように！

世界中の人々に主の平和がありますように

平和な年となりますように！

キリストによって、キリストと共に、

キリストのうちに





ナルドの花たより

待降節に私たちの希望は増し、それは人を失望させない希望です。主は決して私たちを見捨てません。

Advent increases our hope, a hope which does not disappoint. The Lord never lets us down. (2014. 12. 4)

勇気を持って、神のことばに従っていけるよう、おとめマリアに学びましょう。

Let us learn from the Virgin Mary how to be bolder in obeying the word of God. (2014. 12. 8)

今日は、私の司祭叙階記念日です。どうか、私と、全ての司祭のためにお祈りください。

Today is my anniversary of ordination to the priesthood. Please pray for me and all priests. (2014. 12. 13)

耳を澄まし、沈黙を保つよう努めましょう。そうすれば、神の素晴らしさが働く空間ができます。

May we try to listen and be silent in order to make space for the beauty of God. (2014. 12. 24)

イエスとともにいれば、真の喜びが得られます。

With Jesus there is true joy. (2014. 12. 25)

カトリック中央協議会 教皇フランシスコのツイート（邦訳）より



阪神淡路大震災追悼

あれから 20 年・・・

1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分、お茶会の準備に出かけるため、すでに起きていた私は異様な音を耳にします。ゴーという地鳴り。一瞬の静寂。何故か「地震だ！」と思うと同時にドカン！という爆発音。そして洗濯機に放り込まれたかのような大揺れ。不思議なことにその間、音は聞こえませんでした。揺れが収まって神戸の街を見ると、国道 2 号線あたりから火事だと思われる 2 本の黒い煙が上がっていました。

あれから 20 年、表面上は復興を成し遂げ、今年の神戸マラソンではその姿を見てほしいということで、東北から応募された方は全員ご参加いただいたとか。そしてあの時から日本中にボランティアということば・活動が定着し、それ以降の各地の災害にも多くの方がボランティア活動に参加するようになりました。

当時を振り返りつつ、その体験を私たちはどのように活動につなげていけばいいのでしょうか。3 名の方に原稿をお願いしました。 (広報部)

あの時、そして今

1995年1月17日の手帳を見返すと、被害の記録と共に「私達の神戸、絶望！」の文字がありました。芦屋のさそう病院に入院していた母のもとで被災した私は、震災直後の国道2号線を走りながら大好きな神戸が壊れた姿を目の当たりにし、泣きながら家まで帰ってきたことを思い出します。

幸いに家の被害は少なく、海星病院へガーゼに手アイロンをあてるといったような普段では考えられないような、しかもとても単純な作業のお手伝いに通いました。そういう人手が必要だったのです。間もなくザビエルハウス・生徒研修所がカトリック系の病院関係者の方の活動拠点になり、治療にあたって下さる先生方の食事作りや車での送迎のお手伝いをしました。教会では、若き日の松村神父様を中心に若者たちが各地の支援に飛び回っていたことを思い出します。

灘教会・中山手教会・下山手教会の被害がひどく、3教会を統合し神戸中央教会として再出発することとなりました。大阪教区が神戸中央教会に活動基点としての活動センターを設立。神戸地区の各教会で炊き出しを担当したり、仮設住宅への訪問や親睦を図るための朝食会なども行なわれました。炊き出し時の食事をめぐるいさかいや、仮設住宅での新しいルール作り、復興住宅に入居するや一人住まいの淋しさ、新しい隣人との付き合いの悩みなど、聞いてあげるだけで何もしてあげられなかった後悔、その時々の問題や課題は大変なものでしたが、以後の震災後の対応などを見ると、あの時の皆の経験が生かされているのだと思えます。

政治で解決しなければならない問題も多くありますが、その上で、社会の中でキリスト者として、人としてどう行動していくか、あの震災を経験した私達にはわかっているはずですが。それは自然破壊をくい止め、謙遜に自分たちの日々の生活を振り返り、今一度立ち止まり考えることではないでしょうか。今できることを精いっぱいするしかないと思っています。(藤井)

忘れられない1・17!

1・17阪神淡路大震災。あつと言う間の20年でした。今、自分の歩んだ道を振り返って見ると、大きく人生観や価値観を変えられたと思える出来事の一つになりました。

震災に関しては、あの時までまったく無防備の状態で大震災を体験することとなりました。

この震災で学んだことの一つとして、大災害の直後は、とにかく家族はもちろんご近所同士が自分たちで助け合えるという、お互いが信頼できるコミュニティを普段から作っておくことがとても大切だと痛感しました。

特に、この震災をきっかけに根付いたとされる各団体からのボランティア派遣や、“支援金”“義援金”等の募金活動。また、災害、人災、犯罪などのトラウマ的な体験により、精神不安などの後遺症が出るPTSD(心的外傷後ストレス障害)等の心の傷を一日でも早く解消するための活動が、早くから着手されるようになりました。

災害が起こるたびに、日本に限らず世界中の様々な被災現場で繰り広げられているボランティアの活動。マスコミの報道等を見ながら、いつも、心の隅にあり自問自答することは、同じ体験や経験した者として、個人や教会共同体として、被災者のためにどのように働けばいいのかと言う思いでした。

でも、2年前の3月に東北の大船渡へ仮設訪問のボランティアに訪れた時、仮設入居者の方々とお茶っこをしながら被災のお話を伺う中で、一人の被災者の方がポツリと一言。「同じ思いでいてくれるだけで心強いんです」と・・・。

この言葉の中に、ボランティアが果たす役割が込められていると感じさせられ、ボランティアの

最大の役割は、“思いの共有”だと教えられました。

様々な活動に参加するだけで、その役割は十分に果たしていると思います。遠隔地で駆けつけることができない人は物資やカンパを送る。カンパを送ることができない人はメッセージを送る。それぞれの立場で、個人個人ができることをするのがボランティアかなと思う昨今です。

被災地訪問で教えられたこの思いを忘れずに、地域社会の中で共助社会ができていくための活動ができればと願っています。

人生の一生を、1章30年にたとえてそろそろ人生の最終章にさしかかりました。

家族の負担を少なくするためにも、自分のことや資産のこと、友人・知人などの情報、延命治療や介護、葬儀等について書き記すエンディングノートを作っておかなければと思うようになりました。このノートの1Pに、震災を知らない孫達へ“贈る言葉”として載せて伝えることで、人の悲しみを共有できる人に育ってくれればと願ってはいますが、いつできるのやら予定は未定？

(川越)

気づかせてくれたこと

毎朝9時、「では只今から始めます。」のセンター長の言葉でボランティアさんたちは瞑目します。静かな時が流れます。各自が震災当時から現在に至るまでの時の流れを思い、震災で思いもかけなかった人生を送ることになった方々の為に祈ります。私が週2回ボランティアに行っている神戸地区社会活動センターでのミーティング前の光景です。

「谷間に置かれた人々の心を生きる教会」を目指した大阪教区の新生計画。絵に描いた餅で終わるか、震災で行政から見放された人々と共に生きる教会を生きていくか、神戸地区が選び取ることを迫られた時だったと思います。

震災から1年後に救援基地から神戸地区社会活動センターとして、これまでの活動を同じ敷地内で、恒久的な活動として続けることを選び取った中央教会の方たちに私は感動しました。教会内で、近隣で、多くの葛藤にさらされながらも、神戸地区の各小教区の協力もあり、奇跡的という言葉がふさわしいほど今も活動は続けられています。

今は行政の「絆再生事業」のお蔭もあって以前より生活支援の数は軽減されたようですが、丁寧な個人対応は不安を抱える方にとっては大きな拠り所となっています。神様はどの人もみな等しく大切に思っておられます。少しの勇気と優しさを出し合って一人ひとりを大切に、共に生きていくこと、それが新生を生きる、キリストの歩いた道を歩むことではないでしょうか。震災が私たちに気づかせてくれたことではないでしょうか。

(長瀬)

そうして、福島でご活躍のシスター小沢から、福島の様子をお知らせ頂きました。

忘れないで！

～東日本の被災地から～

6号線は通れるようになりましたが・・・

六甲教会の皆様、新年あけましておめでとうございます。旧年も物心両面でご支援いただき、感謝申し上げます。新しい年もよろしく願いいたします。

2014年9月15日に国道6号線が「自己責任」で通って良いことになりました。福島第一原子力発電所の近くは今でも7~8 μ Sv/hもあるそうです。通っても安全ということではないのですが、閉鎖しておくともあまりにも不便だということで、「自己責任」で通すわけです。交通量が多く、朝晩は渋滞するそうです。

私たちも富岡の駅まで行ってみました。3年半以上経っているのに、家々は津波が通ったままで、津波に運ばれた車が家の中に入ったままだったり、あたり一面、震災直後のままの状態です。時間が止まっていることに、改めて原発事故の影響の大きさ（長さ）を感じました。震災前は、富岡の駅は東京からの特急が止まり、そこから自動車で原発に向かう人々で賑わっていたのだそうです。駅のすぐ向こうには海が見えます。



富岡駅前の家



6号線沿いの家の前にバリケード

6号線は通れるようになりましたが、1~4号機の近くはいまだに「帰還困難区域」で、家々の玄関先にはバリケードが張られています。それでも泥棒が入るとか。一方、原発から半径20キロのすぐ外のあたりの太田川には産卵のために鮭が上ってきていました。1メートルもある大きな鮭。川底の小石が一つ一つはっきりと見える澄み切った流れの中です。この魚たちは放射線を感じているのだろうか？人間が被ばくを恐れて去っていくところに生き物たちは戻ってきて、命をつなぐ営みを続けているということに、感動したり、励まされたりする思いがしました。（私たちが食べる鮭は川に上ってきたものではなく、海にいる間にとったものだそうですね。）

新しい年にも、主の恵みが豊かにあり、私たちも心と力・知恵をあわせて明るく生きられますように。



透き通った流れの中を泳ぐ鮭



六甲教会の寄付金で購入した中華鍋でベースの調理

教会と同じ敷地内にある「さゆり幼稚園」は震災前は 80 人余りの園児がいたそうですが、震災直後は 7 人になり、現在は 30 名を超えるまでに回復しましたが、運営は大変です。一時は外で遊ばせられないので、教室を壊して砂場にしたりしました。その後、線量が少し下がり、外で遊ばせるように行政の方針も変わったようですが、除染のために庭の表土を 5 センチずつ剥ぐのに、遊具はすべて取り外されていて、遊具がなくなってしまったので、何か作らなければならなくなりました。それで、幼稚園にも寄付を 10 万円さしあげました。

また、私たちが週 1 回夕食作りを担当している原町ベースにも調理用の大きな鍋と中華鍋など、厨房の道具を買いました。原町教会は（日曜日のミサに来る信徒は使徒の数程度。避難して原町を離れた方々もたくさんおられます。）大人用の侍者服を 1 着とチングルムも購入させていただきました。

仙台教区は教会の地区編成を見直し、原町は、行政区としては福島県に属していますが、教会の地区割りでは第 6 区（南城）に属することになりました。「浜通り」（太平洋側）にある南相馬市は福島に行くにも、仙台に行くにも、バスで約 2 時間かかりますが、福島に行くためには阿武隈高地を越えなければなりませんので、雪の時期には危ない部分もあります。しかし、仙台に行くには海沿いの平地を走りますので、それほど困難はありません。南の「いわき」に行くには福島第一原子力発電所があり、6 号線が使えなかったため、アクセスが難しいということで、宮城県南部の地域と一緒にしたようです。南城の一番近い教会は亘理（巡回）ですが、車で 1 時間強かかります。そこから同じく車で 30 分、45 分という距離に、大河原、白石、角田、と 3 つの巡回教会があります。この 4 つの教会を一人の神父様が司牧しておられます。その中の白石教会に昨年は六甲教会の献金の一部 20 万円を差上げました。大きな石油ストーブを使っていましたが、高齢者が多く、石油を入れるのに、大きなボトルを運べないので、空調を入れたいが資金が足りないということでした。それで、皆様からの献金の一部をお返ししました。とても喜んでいただきました。外のマリア様のご像が壊れたので、それも替えたい、など、まだまだ悩みもあるようです。

（マリアの宣教者フランシスコ修道会原町修道院 シスター小沢）

2014年第4回小教区評議会議事録

2014年12月14日（日） 11:15～12:50 於：第4会議室

出席者：アルフレド主任司祭 高山助任司祭 小教区評議会評議員 その他関係者

議題：■協議事項

1. 会計について
2. 2015年度年間行事予定について
3. チャリティーバザーによる献金先について。
4. 六甲教会独自の「阪神淡路大震災追悼ミサ」について

■報告事項

1. 「神戸地区評議会」
2. 「地区役員会」
3. 「各専門部会の連絡と報告」

今回は 小教区拡大評議会にて 2015年2月7日(土) 10:00～
議題の提案と、交代予定人事は2015年1月30日(金) 議長まで

バザー献金先のご報告

小教区評議会にて決定しました献金先と献金額の報告を行います。
内容については評議会か広報部にご確認ください。



<行事報告>

『無原罪の聖マリア』の祭日(12月8日)

12月8日(月)は、『無原罪の聖マリア』の祭日でした。

『無原罪の聖マリア』は、マリア様が神様の特別な恵みによって、その存在のはじめから原罪を免れていたことを記念する祭日です。

この日冬晴れの冷たい空気の中、教会に行きますと聖堂後ろのマリア様の御像の前には毎年のように係りの方々によって、ゆりの花と真紅のバラが飾られています。そして2つのキャンドルには赤いろうソクが準備され、主日のミサとは違った厳かな雰囲気にも身の引き締まる思いがいたします。この日のミサの福音書の中で、イスラエルの素朴で清らかな女性であったと思われるマリア様は、「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」と答えられて、私達に神様への信頼と人への信頼の大切さをしめしてくださっていると思えました。又、ミサの中で高山神父様から3人の共同体の方が帰天なさったことが伝えられ、皆様とご一緒に心をこめてご冥福をお祈りさせて頂きました。(堤)

～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～

<行事報告>

『クリスマス・コンサート』(12月14日)

クリスマス・コンサートに参加して

六甲教会でのメサイアに誘われてから、もう10年が過ぎました。休むことなく参加できたのは、歌仲間と集うことの喜びと、コロン氏の特徴ある指導が魅力的だったからだと思っています。コロン氏は、ヘンデルがメサイアにこめた意味や、音楽上のポイントを冗談を交えながら、易しい言葉で伝えて下さいました。<目からウロコが…>と感ずることが多々ありました。何かしら心が洗われる<お御堂>で歌えたことと合わせて、感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました。(阿部)



クリスマス・コンサートを拝見して

六甲おろしも心地よくメサイアに足を運ぶのは今年で3回目。クライマックスのハレルヤが始まると、また来年必ず来ますねと囁いている私があります。

清らかな聖歌に、うっとりすると同時に、御子イエス様をお迎えするに相応しいお部屋を自分の心に用意できるよう神様にお願いしました。

神様にお願いばかりですが、ご一緒したご近所のお友達と素敵な余韻に包まれ、家路に着きました。
(三戸)

クリスマス・コンサート 13 回目のメサイアを終えて

今月 14 日のクリスマス・コンサートは盛会のうちに無事に終わることができました。

多くの皆様方のご協力、六甲教会のご理解を得てここまで継続できましたこと実行委員一同、厚く御礼申し上げます。

このヘンデルのメサイアは、エリック先生の「何よりも音楽のメッセージを伝える事を第一に」というご指導で続けて参りました。教会の信者の方はじめ、教会外からの参加の皆様、カメラータ神戸のメンバー等、いろいろな方々との出会いの中で沢山の恵みを頂きました。

六甲教会聖堂で意味のある音楽が出来ましたこと、心より感謝申し上げます。

なお、終演後頂きました皆様からのご芳志 116,778 円全額を六甲教会へ献金させて頂きましたこと、ご報告いたします。ありがとうございました。
(クリスマス実行委員会 高原)

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

<行事報告>

『市民クリスマス』(12月19日)

第 56 回 神戸市民クリスマスに参加して

今年も「神戸市民クリスマス」のキャロリングに参加しました。今年の北野コースは、午後 5 時に新神戸オリエンタルアベニューを出発し、日本キリスト教団神戸聖愛教会、神戸バプティスト教会、カトリック神戸中央教会、日本キリスト教団神戸栄光教会、そして最後に日本聖公会神戸聖ミカエル教会と、約 3 Km に亘る道のりでした。アルフレド神父様も最初からキャロリングに参加されました。出発時は 30 名くらいでしたが、徐々に増え栄光教会では 60 名余りのかたまりとなりました。天候も昨日までの寒さとは打って変わって風もなく、さほど寒さも感じなかったのが、長い道程の割に参加者にとって幸いしました。

最終目的地の聖ミカエル教会ではお茶やお菓子そして豚汁のサービスがあり、歩き続けた身体の疲れを癒すのに十分でした。その後、キャロリング参加者や直接教会に来られた人たちが、一堂に聖堂に集まり約 1 時間「祈りと祝福のとき」を共有しました。

50 年以上の歴史ある教派を越えたこの集い、まだまだ工夫は必要ですが、伝統的なクリスマスのイベントとして、更にはいいものにして欲しいと願います。
(蛭田)



キャロリング



ホットコーナー



礼 拝

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

<行事報告>

『グランダ御影訪問』（12月21日）

クリスマスに歌を聞かせてほしいと嬉しいオーダーがあり、混声合唱団有志でグランダ御影に馳せ参りました。スタッフの方より皆様のご様子をお知らせ頂きました。

「とにかく格好よかった、身につけているものから歌っている様子まで。また歌いに来てほしい」

「感激しました。とにかく選曲がよかったわ。クリスマスらしくて」

たくさんのご入居者様が合唱に合わせて一緒に歌われていました。ご存じない曲はハミングしたり、またリズムに合わせて身体を動かす方もいらっしゃいました。中には涙ぐむ方も。お話を伺うと、入居前に教会の近くに住まわれていたとのこと。合唱を聴いて、あの頃も教会の方からきれいな歌声が聴こえてきたなあ、と懐かしい風景を思い出されたとのこと。「ほんとうによかったわあ」と晴れやかな笑顔を見せて下さいました。

たくさんの方に笑顔が届けて下さいました。ぜひまたご来訪頂ける機会があればと、スタッフ、ご入居者様一同、心待ちにしています。この度は本当にありがとうございました。

（グランダ御影山手 スタッフ 中安・野田）



～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

<行事報告>

『主の降誕（夜半のミサ）』（12月24日）

「主の降誕（夜半）」のミサの先唱をつとめて

“クリスマスミサ”・・・年間を通して行われるミサの中でも聖週間のミサと並んで特別なミサと誰もが感じていることでしょう。私も心を新たに先唱させていただきました。

子供たちが主日の祭壇奉仕者を務めています。毎年、侍者会（橘さん、吉村さん）が子供たちの指導をされています。今年はアルフレド神父様が加わって祭壇奉仕の新しい動きを指導されました。私が一番変わったと感じたことは、司祭が福音朗読をする時に祭壇奉仕者が点火された「ろうそく」を持って左右に立つことです。「世の光」である福音を強調するためでしょう。

クリスマスミサでも堂内のライトが消される中、「幼子」（イエス様）の入堂の際に真ん中の「幼子」を挟んで左右に点火された「ろうそく」を持った祭壇奉仕者が立ち入堂しました。「神がこの世につかわされたイエス様」の存在をもっと意識してほしいという思いからでしょう。



ミサの始まる前に行われたコーラスも好評でした。普段はあまり教会に来られない方が久しぶりに来られて「やはりクリスマスミサはいいですね、感激して涙が出てきました。」という感想を述べられていました。初めて教会に来られる方にもこのような感激を味わってほしいと思います。

クリスマスミサを通して人々が新らたな「気づき」を感じ、それが活動の源となることを願っています。
(河野)

《 各 部 だ よ り 》 各専門部会の活動をお知らせいたします

地区会

2月1日(日) 地区役員会

宣教部

1月25日(日) 部会

三日月会

1月19日(月)14:00 ミサと懇親会

社会活動部

2月6日(金)初金ミサ後 連絡会

教会学校

1月10日(土) 始業式ともちつき

施設管理部

1月25日(日) 部会

典礼部

1月17日(土)11:00 部会

広報部

1月31日(土) 教会報2月号印刷

～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～

《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★典礼部より★

2015年1月17日(土)10:00 阪神淡路大震災追悼祈念ミサ中止について

大阪教区主催の阪神淡路大震災20年追悼ミサが、2015年1月17日(土)11時より神戸中央教会にて、前田万葉大司教様司式で捧げられます。

従いまして、六甲教会の1月17日(土)10時の追悼ミサは中止となりましたので、同日の19時ミサは「阪神淡路大震災追悼」の意向でミサが捧げられます。

★社会活動部より★

1月5日(月)10時 越年越冬の炊き出し 東遊園地にて14時ごろまで活動しています。

1月10日(土)10時 炊き出し(イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話し相手や、配食だけでもOKです。

1月18日(日)10時ミサ後 ふれあい広場(イグナチオホール)

お弁当・食料品・手作り作品等の販売を行います。

1月23日(金)9時30分 ともしびケーキ作り(イグナチオホールお台所)

※ 手芸の集いは、1月はお休みです。

越年越冬の炊き出し

12月28日(日)～1月5日(月)

東遊園地

10時 テント張り等準備

11時 食事作り

12時 配食

カトリック当番日：1/1(木)・5(月)

たくさんのボランティアさんがいら
しています。お立ち寄りください。



<墓地っ子だより>

お正月のお墓参り

お正月に墓参はいけないという方おられますが、仏教、キリスト教を問わずそのようなことはありません。私たちにとって大切なご先祖様に、年頭にあってまず一番にご挨拶するのは当然のことではないでしょうか？そして年末にはお墓の掃除や雑草抜きをして、今年一年お守りいただいたことに感謝するのがいいでしょう。

今年から新年のミサの後お墓参りを、お正月の行事の第一に組み入れてみてはいかがでしょうか？長峰霊園は12月29日～1月4日開場しています。1月5日(月)は休場です。

追記：供花は持ち帰りましょう。

玄関や床の間のお花は枯れる前に入れ替えますが、お墓の場合は非常に難しいでしょう。毎週お墓を訪れる方のみ可能です。確かに数人の方のお墓では枯れた供花を見たことがありません。供花は1週間もすれば枯れてみすぼらしくなりゴミになります。これではご先祖様に申し訳ないでしょう。お墓参りでお祈りをしたあとは持ち帰り、御自宅の祭壇に供えるのがいいと思います。

墓地委員会 SF



新年会のご案内



日 時： 1月11日（日）10時ミサ後

場 所： イグナチオホール

当日のごミサでは成人式の祝福が行われます。新成人を囲んで新年のお祝いをしたいと思います。今年の担当は東灘北1地区です。皆様楽しんでいただけるように工夫をこらして準備いたします。

一年に一度の新年会、楽しいひと時を過ごしましょう！

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(地区会 東灘北1 橋岡)

教会で成人式を！



1月11日（日）10時ミサ中、新成人祝福式が行われます。

成人を迎えられる方にお声をおかけください。信者・未信者は問いません。



《 図書室からのお知らせ 》 2014年12月に入った図書から

☆ 神さまの風によって 子どものための福音解説 —— 江部純一 オリエンズ宗教研究所
イエスさまの「ことば」と「行い」を少しでも多くの方に知ってもらうために書かれた本です。イエスさまは、わたしたちがふだん当たり前のように考え、行動していることに対して、ときどきびっくりするようなしかたでお話され、行動されました。・・・イエスさまはなぜこのようなことを話されたのでしょうか。・・・(まえがきから)

『こじか』連載より抜粋・加筆修正 36話

☆ キリスト教入門 生きていくために —— オリエンズ宗教研究所 編 発行
イエスが父と呼んだ神はどのような方なのか。今を生きる私たちとどう関わりがあるのか。イエスの生涯、祈り、教会の教えなど、キリスト教の全体像をやさしく解説する。

(以下 目次から)

- 1 生きていくために 2 神を求めて 3 イエスは神の国の福音を告げる
- 4 イエスは父である神を示す 5 イエスはすべての人々を父のもとに集める
- 6 イエスは神の愛の証しをする 7 父と子と聖霊 8 キリストの教会
- 9 キリストは私たちのうちに生きている 10 秘跡について 11 祈りについて
- 12 悪との戦い 13・14 現代に生きるキリスト者 15 永遠のいのちと聖母マリア



みんなの広場

明けましておめでとうございます。

といってもそれは人間が勝手に作った区分、神様が創られた“時”はそんなことにはお構いなし。今年1月4日が「主の公現」の祭日になっています。もともと「主の公現」の祭日は1月6日で嘗ては毎年1月6日が「吾主御公現」の大祝日でした。第二バチカン公会議後に日本のようにこの日が守るべき祭日でないときは、1月2日から8日の間の日曜日に祝われることになって今は「主の公現」の祭日は1月6日ではなく毎年変わることになりました。来年は1月3日だとか。

元々この祭日は古代エジプトで行われていた太陽神の祭りを取り入れたものだそうです。2～3世紀頃から東方教会では1月6日に御降誕や博士たちの訪れなど救世主の御来臨に関わることを合わせて記念していたとか。4世紀頃であったか12月25日に御降誕を祝うようになって、東方教会の習慣を取り入れ1月6日に「主の公現」を祝うようになりました、この日読まれる福音は嘗ても今も同じマタイ2：1～12です。

新しい年の初めは「神の母聖マリア」の祭日、日本では「主の降誕」と共に二つだけの主日の他に守るべき祝日になっています。“お正月”に気をとられて忘れがちですが、1931年エフェゾ公会議1500周年に際し、ピオ11世が1月1日を「神の母」の祝日と定めたことが祝日の始まりだったということです。このエフェゾ公会議は聖母が神の母だということを否定したネストリウスを異端として退け、マリア様が「神の母」であることを教義として宣言した公会議でした。しかし、元日は嘗ての祝日表には「主の割礼と降誕の八日目」となっておりマリア様の祝日ではありませんでしたが、1969年の典礼暦の改定で「神の母聖マリア」の祭日になりました。救い主の誕生の秘義にマリア様が果たした役割を思い起こす日とされています。

初代教会からこれまで教会の典礼は大きく変わりました。これからも変わるでしょう。主日のミサの「聖書と典礼」でその日の典礼文を読むだけでは聖暦年を生きることは覚束ない。カトリック中央協議会のサイトや女子パウロ会の“L a u d a t e”などのサイト、さらに「毎日のミサ」など出版物も多々読めます。いつか必ず訪れるその時までの日々、今年も聖?年を生きることにしましょう。それと「教会報」にどしどし原稿を送りましょう。神学の論文を載せる場ではありませんから。
(ヨハネ 三好)

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

光と闇 2 ー愛の沈黙ー

「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」(マタイ 27：46)

が不思議でなりませんでした。父なる神も、ご自身が御子でいらっしゃることも、また、十字架の苦しみを経て三日目に復活なさることもご存じでいらっしゃるばかりか、アブラハムの食卓に招かれているラザロを時を超えてすでにご覧になっていらっしゃる(と私には思われます。)イエス様の叫びは、私たち人間(罪びと)の死を前にした恐怖や痛みだとはどうしても思えませんでした。

人間の苦悩をすべて体験して下さったという意味では確かにそれ



もあるのでしょう。けれども主のためには千の命も惜しくはない、と喜んで殉教なされた聖人方がいらっしやるのですから、やはり疑問に思えてなりませんでした。

やがて、「なぜわたしをお見捨てになったのですか」は、主が多くの人々が経験なされた「闇」をみせてくださっているのでは？と思うようになりました。神様のみえない暗黒の「闇」、神はいらっしやると思うけれどどこにいらっしやるのか全くわからず、たったひとりぼっちで取り残された「闇」の世界。それは私たちにとって、あるいは死んだ方が楽かもしれない(?)と思われるほど恐ろしいものなのでしょう。

私たちは神様の応えがほしい。けれどもあるとき思ったのです。父なる神様は十字架上のイエス様に何とお命じになることができたのかしら？。「十字架から降りろ」はもちろん「十字架上に留まれ」とは決しておっしゃれなかったのではないのでしょうか？ 十字架の下に佇む人たちに「留まれ」とお命じになる声は聞こえるはずはないのです。神様は私たちをこの世を旅させる、(狭義の) 選択の自由ある人間としてお作りくださったのですから…。

父のみ旨を「声」としてではなく、でも明確にお受け取りになったイエス様は十字架の上で「闇」を、神と共にいる喜びと愛(苦しみ)を、十字架の向こうの復活の希望を、そして何より神ご自身を、全能の神の圧倒的な救いのお力(とその方法)を私たちにを見せてくださったのでしょう。

「今やわたしは、あなたがたのために苦しむことを喜びとし、キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています。」(コロサイの信徒への手紙1:24)

初めて読んだ時、なぜ「キリストの苦しみ(愛)の欠けたところ」なのかしら、と思いました。主に欠けたところなどないはずですから。けれどもこれこそ「愛し合いなさい」という最大の掟を知るために、主が私たちに残してくださった愛なのだと思うようになりました。祈り、祈られ、助けを請い、手を差し延べ——。

十字架の向こうに復活をみつけたとき、主を愛するゆえに人を、自然を、すべての生きとし生けるものを愛するとき、主キリストのうちにすべてを抱くとき、「闇」はもはや以前と同じ暗黒でも孤独でも苦しみでもなくなるでしょう。

「闇」に引き入れられるのは主です。けれども「闇」に置かれたときはその原因を知り、「闇」に長く留まらないよう支え合い、そして主の憐みによって「闇」から抜け出せたら、「愛し合いなさい」という主の掟に、より忠実でありたいと願います。父の沈黙は私たちの主イエス・キリストの沈黙ですから…。(マリア)

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

摩耶山山頂付近に、須磨から明石方面を見渡せる絶景ポイントがあります。そこに足を運ぶことが多くなりました。雲間に浮かぶ夕陽がきれいなこと、明石海峡大橋や淡路島があることもありますが、FOP*と闘うわが友「いっくん」がいることが、大きいのです。

「いっくん」は、こっちからメッセージを出せば、必ず返してくれる本当にいいやつです。FOPと「いっくん」のことは、この教会報**で、ひるたさんが、紹介してくださったので、詳しく知ることができました。その数年前に、ちらっと民放で、「いっくん」のことを言っていたのですが、どうしてあげることもできませんでした。

ようするに、教会が無かったら、私は「いっくん」に何もしなかったし、何もしてもらえなかったということになります。当然、六甲教会は、上空から眼に焼き付くほど観ています。

(MAY A702)

*進行性骨化性線維異形成症(しんこうせいこつかせいせんいけいせいしょう、



「私の神」を知った日

20 年前の阪神淡路大震災の日、私は当時暮らしていたドイツにいた。

国際電話はつながらない。テレビニュースの映像はくずれた生田神社の社、倒れた阪神高速、火をあげる長田の町の映像ばかり。インターネットも普及しておらず、詳しいことは全くわからない。神戸にいる家族、親戚、友人、知人全てを失ったと思った。無意識に口に出たことばは「ああ、神様」。

幸いなことにみな無事であった。後になって思った。その頃未信者であった私が発した「ああ、神様」の神様とは一体誰だったのだろう。それは紛れもなく、幼い頃学校で教わったイエス様だった。「私の神」を知る日であった。

(フランチェスカ)



2015 年元旦ミサ

1 月 1 日(木) 神の母聖マリア (新年のミサ)

0 時、7 時 30 分、11 時

1 月 11 日(日) 新成人祝福式

10 時ミサにて

ミサ後、教会の新年会が行われます

1 月 17 日(土) 阪神淡路大震災追悼祈念ミサ

11 時より神戸中央教会にて

司式 前田万葉大司教様

19 時より六甲教会にて

主日のミサ内にて

事務所年末年始休業のお知らせ

六甲教会事務所 2014 年 12 月 29 日(月)～2015 年 1 月 3 日(土)

大阪教区事務局 2014 年 12 月 30 日(火)～2015 年 1 月 5 日(月)

広報部からのお願い

広報部では教会報を図書室にて記録として保管しておりますが、一部、保存ができていない期間がございます。特に、1989年～1998年の10年間の記録がございません。

お手元にお持ちの教会報を頂けましたら幸いです。教会受付宛か、信徒会館1階にございます、各部会連絡用引き出しの広報部宛てにお持ちくださいますようお願い申し上げます。

ご協力よろしくお願い致します。

<p>教会報2月号の発行は、2月1日(日)です。 編集会議1月25日(日)です。 記事原稿は、1月18日(日)正午までに信徒会館 受付へご提出願います。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編 集 広 報 部</p>
--	--